



▲枚方市駅南口（昭和30年前後）。一日の乗降客は約2万人。手前の車は客待ちのタクシーです。



◀ 一日利用者9万人を超え、京阪線では京橋・淀屋橋に次ぐ乗降客を誇ります。



▲混雑するホーム（昭和44年）。

## まちとともに発展した市の玄関口

# 枚方市駅

都会的で開放的な駅舎と広い駅前広場を持つ京阪・枚方市駅は、今から101年前の明治43年、京阪電車の開通とともに「枚方東口駅」として開設され、昭和24年に現在の駅名となりました。

枚方市駅は昔から京阪線有数の乗降客の多い駅で、「乗り降りに時間がかかり、満員の電車はブレーキも効きにくくなるので、枚方市駅にさしかかるときには一層気を引き締めていました」と、昭和34年に京阪電鉄に入社し、運転士も務めた松島志朗さん（74歳）は話します。市駅近くで生まれ育った松島さんは「駅の南側は低い木造家屋が建ち並んで雑然としていました。北側には岡本町商店街があって、親に連れられてよく買い物に行ったものです」と振り返ります。まだ駅は高架化されておらず、西側には『開かずの踏切』で有名な踏切がありました。「私が子どものころは手で、電車が近付くと踏切番の人が笛を吹きながら手で降ろしていたのを覚えています」と話します。

市の人口が増えて市駅の乗降客も急増してきた昭和40年代、ラッシュ時のホームは人で溢れ返り、駅の拡大や駅前整備が急務となりました。そこで、昭和47年に駅前広場の再開発が、昭和53年には高架化工事がスタート。長い年月を経て、平成5年に市の玄関口としてふさわしい駅が完成しました。高架下や駅中でグルメやショッピングが楽しめるようになり、多くの人でにぎわっています。

（平成23年4月号）